



黒い月下美人「蝋」

～ 見えるものと見えないものの間 *episode 1* ～

超絶染色技法の世界

異能の
作家

イズオカ ヨシユキ展

2025年 7月19日(土) ▶ 9月7日(日)

【開館時間】 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】 月曜日(祝日の場合翌平日)

【入館料】 一般 500円(400円) / 65歳以上 400円(300円) / 高校生以下 無料

(注) ()は20人以上の団体料金(1人当たり)

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳をお持ちの方及びその介助者は無料

○主催 美術館あーとあい・きさ

○後援 中国新聞社・中国放送・広島テレビ・広島ホームテレビ
テレビ新広島・広島エフエム放送・三次ケーブルビジョン
三次市・三次市教育委員会

○協力 教壇側隔本舗 代表取締役 住田尚幸
税大谷会計 税理士 大谷博昭
戸田寛朗

イベント

オープニングイベント

7月19日(土)

●11:00～ 作品献呈式/仕舞と謡の披露
ギャラリートーク

●14:00～ 仕舞と謡の披露
ギャラリートーク

※仕舞の演目: 百鬼/シテ 杉浦豊彦
(観世流能楽団)
地謡 藤井文雄

ワークショップ

「ハンカチを自分色に
染めてみよう! (ろうけつ染め体験)」
8月3日(日) 13:00～16:00

●会場: 美術館あーとあい・きさ
●対象: 小学5年生以上
(小学生は保護者同伴)
●定員: 10名(申し込み順)
●参加費: 800円



【アクセス】
～JR吉倉駅から約1.2km
～中国やまなみ街道吉倉ICから約2.5km
【駐車場】 20台(無料)



美術館 あーとあい・きさ
広島県三次市吉倉町吉倉546-1 TEL/FAX (0820) 43-2211
E-mail kisaari-eki@pl.gionet.ne.jp

ごあいさつ：美術館あーとあい・きさ開催にあたって イズオカヨシユキ

先天性色覚異常というハンディキャップにより美大進学を断念、また周囲の無理解から健常者とは違う色覚を揶揄される事もあり、一般人と見え方が違うという現実、それでも美術の道へ進みたい私にとって、時に耐え難い重積となりました。

しかし、不思議なことに唯一「絹布」に染料が染まる際の独特の色彩には、解き放たれたような心の高揚を感じることができ、私は筆を置くことなく歩を進めることができたのです。

30年が経過した頃、まったく偶然に、日本が世界に誇る伝統文化の一つ「能楽」との出会いが。

異界と現世が時間軸を超越して邂逅し、物語を紡いでいく能。その、ふたつのものが交わる、あちらでもこちらでもない空間を能では「あわい」と呼ぶのですが、私と他者が明確には知覚できない色彩領域もまた「あわい」ではないのか。ならば私が見えるがまま感じたままの作品にも、それを見る人の感性を喚起する力が備わっているのではないかと。そう気づいた瞬間、先天性色覚異常というハンデを赦し、より自分らしく自分の見えている世界を思い切り表現してみようことを決意。「あわいの染色絵師」として新章をスタートさせることにしたのです。

そうして生まれたのが今回の作品群です。白いはずの月下美人を「日蝕」「月蝕」のごとく黒く染め抜いた「蝕(しょく)」、「蝕」が連なった「連(れん)」、「蝕」の前後に起こる薄黒色の状態「朧(おぼろ)」といった、さまざまな

「あわい」をご覧ください。さらには、伝統的な材料・工法を今に伝える江戸表具研究会・表袴会とのコラボ掛け軸「連」など、各界一流との共作も特別展示させていただきます。

また、7月19日のオープニングイベントでは、多大なるインスピレーションを与えていただいたお一人、観世流シテ方能楽師・杉浦豊彦先生を京都よりお迎えし、献呈作品「爛(らん)」の元となった演目「百萬」のお仕舞を展示室内にて披露していただくことになりました。シテ・杉浦豊彦先生、地謡・藤井丈雄先生(同じく観世流シテ方能楽師)という豪華な布陣による夢幻世界は、格別なひとときとなることでしょう。

これまでの常識や価値観が揺らぎ始めている昨今です。拙作を媒介として、見えるものと見えないもの、自分と他者、彼岸と此岸など、隔絶したように感じる二つは全て繋がっており、無窮の可能性を秘めていることを感じていただければ幸いです。



連



蝕



朧



君、想フ

～色彩の異世界へ～
あわいの染色絵師

イズオカヨシユキ



1970 広島県広島市生まれ
1989 広島県立観音高校卒。美大受験を希望するも、色覚異常により断念
1995 インドネシア・マレーシア染色造詣。マレーシア国立博物館にも作品収蔵されているアーティスト MD.SALLEH BIN DAWAM 氏に師事/マレーシア
1997 帰国後、独学で染色技法を習得

観覧

【国内】●阪神百貨店梅田本店/大阪市 ●トキハ本店/大分市 ●米子高島屋/米子市
●山形屋/鹿児島市 ●大丸福岡天神店/福岡市 ●広島三越/広島市
●小倉井筒屋/北九州市 ●名古屋栄三越/名古屋市
【海外】●SOMArts Cultural Center/サンフランシスコ ●K gallery/釜山広域市海雲台
●マレーシア他

パブリックコレクション

ホテル、病院、市立美術館、ユニセフ、デパート、他多数
また、国内外のアートコレクターの個人蔵多数。

次期企画展のお知らせ

2025年9月17日(水)～11月5日(水)
落合克二版画展 ― 木版画の世界とガラス絵 ―

《能楽師プロフィール》 7/19 オープニングイベント出演

仕舞 杉浦豊彦 能楽師 観世流 シテ方



1962年 京都に生まれる。杉浦元三郎 長男。
祖父 杉浦家初代 義朗は、二十五世宗家より雪号を与えられ「友雪(ゆうせつ)」と名のる。また祖母は、京舞井上流 人間国宝 四世井上八千代。
1966年 3歳で初舞台以来、父 杉浦元三郎 及び、伯父 片山幽雪(博太郎)に師事し、名子方と評される。
また、1971年 8歳で「岩船」にて初シテをし、成人までにシテ二十五番演習する偉業をなしている。
その後、1984年 21歳で二十五世宗家観世左近に内弟子入門し、芸と人間形成の修行に励み、1989年独立。
現在は二十六世宗家観世清和に師事し、切れ味のある迫力の中に、品格を兼ね備えた、美しい能と定評あり。
さらに近年は、NHK BS プレミアム「ダークサイドミステリー」、テレビ東京「FOOT×BRAIN」、NHK E テレ「にっぽんの芸能」などに出演する。
また杉浦家一門を指導し、「杉浦定期能」の運営はもとより、京都観世流の中核として活動を行う中、公益社団法人京都観世会理事を始め、公益社団法人能楽協会常議員・一般社団法人京都能楽会理事と数々の役職を歴任し、若手の指導・育成にあたる。

地謡 藤井丈雄 能楽師 観世流 シテ方



1975年生まれ、同流の藤井完治の長男。
3歳で仕舞「老松」で初舞台。以降、子方(コカタ)として活動する。1999年に同流の研修生となり、シテ方として本格始動。カルチャー教室及び私設の教室の指導や、海外公演を含む能楽公演の主催、及び出演多数。
SNSでの発信やワークショップ、こども教室にも取り組み、広く能楽に親しんでもらおうと様々な活動を精力的に続けている。
公益社団法人 能楽協会会員 神戸支部所属
神戸新聞カルチャー 六甲道教室 講師